

---

# 自転車と男。【1】

鳴子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

自転車と男。【1】

### 【著者名】

鳴子

N6245Q

### 【あらすじ】

自転車が喋つたつていつ。

ミスつて短編になつてます。

【2】から連載にしてますので、暇だつたらどうぞ。

(前書き)

あらまし続ける坂は無い。

男「…なんで今までしゃべらなかつたんだ？」

自「いや、別にしゃべる義務はないだろ？」

男「それもそつか」

（～～～～～～～～）

男「なあつてば」

自「…」

男「おーい」

自「…」

男「…もつ油わせねえ」

自「おい馬鹿やめろ！油がどんだけ大事かわかつてるのか…？」

男「だつて何も言わねえんだもんよ」

自「しゃべる義務はないって言つただろ」

男「まあまあ。たまには会話するのもいいじゃないか」

自「ほほー口中会話してゐから氣を使わなくていい

男「誰とよ?」

自「他の自転車さん」

男「なるほど。駐輪場の方々か?」

自「距離は関係ない。ツイッターみたいなものだ」

男（なんでツイッター知つてんだよ…）

自「乗り手のものは自転車のもの」

男「考えがわかるのか?」

自「乗り手の脳内がまんま」うちにあると思つていー」

男「俺がもう一人とか…」

自「性格は」つち独自のもんだよ」

男「そうなのか」

自「たぶん」

男「ええー…」

自「詳しいことは知らん」

男「投げやがった…」

(後書き)

読んでくれてありがとうございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6245q/>

---

自転車と男。【1】

2011年5月21日04時38分発行